

私 の 工 夫

基礎的な技能「描く力」を
習得することで、制作への
自信を育むための取組

岡山市立石井中学校

教諭 川阪 理智

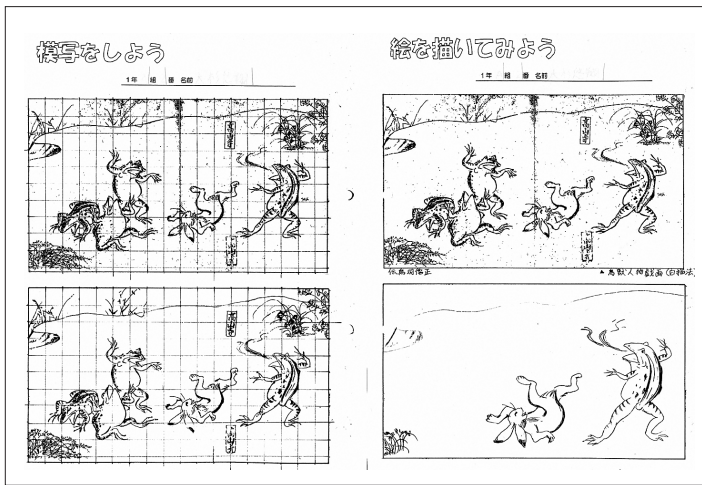


1 はじめに

美術は作品を制作するだけでなく、鑑賞の授業も含めて造形的な考え方を育て、美術文化に対する考えを深め、感性を豊かに育てていく教科である。

しかし生徒の中には、上手に描けないことで制作に拒否感を持ち、美術が苦手と思いつつ生徒や、鑑賞や発想の授業では積極的だが創造活動には意欲が持てない生徒がいる。

そういった生徒も「描くことができる」経験をすることで、創造活動に自信を持って取り組む姿勢が生まれ、授業を楽しみ、美術への愛着を深めることができるのではないかと考えた。



(図1)「模写」 左上上の図は元の絵。下は生徒の作品。右が補助線のないまま描いたもの、左は補助線を使って描いたもの。

今回、中学1年生の授業の中で「描く」という基礎的な技能の習得を通して、生徒の考えが変わった事例を取り上げたい。

2 実践1

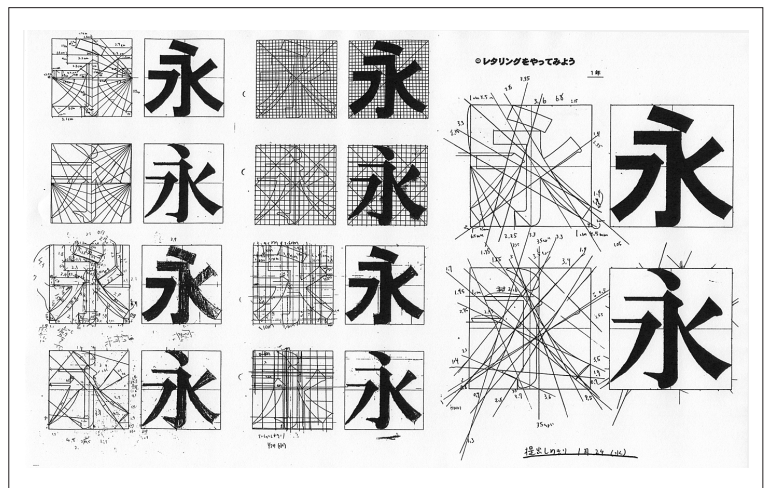
基礎的な技能の習得を目指して(補助線の工夫)

① 基礎

1年生の最初に「模写」の授業を行った。はじめは「見たままに描く」ことを指示した。描いた作品は形や大きさが狂い、自分の作品を隠す生徒もいる。その後、既定線を利用した描き方を紹介し、制作に向かった。1ミリのズレもないように集中して描いた自分の作品を見て「こんなに集中したことがない」「こんなに上手に描けたのは初めて」という感想が出てきた。既定線を使うことで、描きたい物が描けると分かった生徒は、描くことへの抵抗感が減少し、自信を持ちはじめた。

② 応用

1年生の後期に、絵文字



(図2) 例として提示した1年生「レタリング」の完成後のプリント。模写と同じく等間隔で線を引く、角度を知るために斜めの補助線を使う、とにかく地道に計り続ける、など様々な描き方をしている。

の制作に向け「レタリング」を行った。文字の形をそのままに描くという内容を話すと、模写との関連に気がつく生徒の声があがった。今回は自分にあった方法を探すことも課題だと伝える。「一人一人に合った描き方は違う、自分に合った方法は何だろう」と投げかけ、方法の一例を提示した。(図2)

定規を使って、長さを測る方法

補助線を使う方法、三角定規や分度器、コンパスを使う描き方もある。生徒は、最初、提示作品の上手さに意識がいくが、描いた方法に注目させることで、どう描くかを考え始め、各自で制作に向かった。



(図3)「レタリング」制作の様子。定規の他に分度器やコンパス、三角定規などを使う生徒もいる。

「自分に合った方法を見つけることも目的」となると、生徒は失敗を失敗と捉えず、主体的に試行錯誤を繰り返して、時にはお互いに交流し新しい方法を探っていく。「この方法が自分には合わない」「早く自分に合った方法を見つけたい」という感想が出始め、これ

以降の課題でも失敗を引きずらずに挑戦しようとする姿勢が生まれていった。

3 実践2

自分自身や教師との対話のための振り返り用紙

制作の最後には毎時間「振り返り用紙」を書かせている。生徒は授業に関する感想や自分の思いを書く。その全部の声に対して毎回

| 1年2学期 美術科 振り返り用紙 | | |
|-----------------------|--|--|
| 1年組 番号 | | |
| 今日の課題 | A B C | 1時間の振り返り(分かったこと、気付いたこと、反省、次頑張りたいことなど) |
| 平塗りを 寛しよう | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 両方× (A) B C | ていねいに平塗りのやり方をし、かり 学べた。 |
| 平塗りを 身につけよう1 | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 (A) B C | きれいにゆくりと ていねいに出来た!! |
| 平塗りを 練習しよう2 | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 (A) B C | 組で一番きれいなのが出来た!! ゆいり時間をかけるのが大切!! |
| 水彩絵の具 について(字ば) | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 (A) B C | 4つ全て出来た! |
| 水彩絵の具 について 字ばう2 | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 (A) B C | グラデーションが難しかった。 もっと上手になれるようがんばりました!! |
| 塗り絵 (水彩絵の具) | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 (A) B C | めり絵は材料だけ、水彩絵の具で塗るの 初めで、色の使い方を難しかった。 |
| 塗り絵2 (水彩絵の具) | 本日の到達度 A B C 課題・忘れ物 確認・訂正 (A) B C | 全部は出来なかったけど、頑張った!! |

振り返り用紙(部分)

コメントを書いている。振り返り用紙を、生徒自身のメタ認知の方法としてだけでなく、教員との対話の場として活用している。教員に積極的に話す生徒の意見は捕らえやすいが、教員に話しかけにくい生徒の思いをどう聞くか。振り返り用紙の中で対話を重ねていく中で、声になかった小さなつまづきや質問が出てくる。つまづいた生徒が取り組む内容を次時に準備し、頑張ったことを認める。対話を繰り返していく中で、安心感が生まれ「自分にもできる」という自信が生徒の中に育まれていくことを実感できた。

4 おわりに

美術は表現や鑑賞の授業を通して、創造的な表現力を身に付け、豊かに発想し、美術に親しむ心や感性を育てていく教科である。決して、描く力が全てではないが、描くことに自信を持って

ないために美術全体に苦手意識を持つてしまう生徒がいる。多くの描く手段を模索することで、苦手と思っていたのは「絵を描くことそのもの」でなく「描く手段の一つ」だと気づき、描くことができるようになると、美術に関心を持ち、徐々に自信を持って授業に取り組み始めるようになっていった。また技能や意欲の成長だけでなく、同じ物でも様々な描き方があると実感したことで、友人の作品を完成後の仕上がりだけで評価していた姿勢から、その描き方に関心を持ち自分の制作へと取り入れようとする姿勢に変化していった。

今回習得した描く力を、2年生では実物を見て描くことにつなげ、3年生では自分の内面を描くことへと広げていく。今後も制作や鑑賞の授業、生徒相互の対話を重ねていくことで、技能の習得だけでなく、様々な発想し工夫する力を伸ばし、互いの違いや良さを認め受け入れる姿勢を育てていきたい。